

Monthly Report

Vol.40 広報室

平成21年9月30日発行

目次:

佐藤佑先生が名誉教授に	1
今年も中国国費留学決定	2
FDワークショップ 学生相談室研修会	3
タイ国若手研究者 こどもスポーツ大学	4
現代GP	5
国際交流	6
世界ボート選手権観戦記	9
学生の活躍	10

佐藤佑先生に名誉教授の称号授与



9月30日(水)に学長室において名誉教授称号授与式が執り行われ、今年3月末で勇退された佐藤佑先生に対して名誉教授の称号が贈られました。

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら広報室までお寄せください。Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供していきたいと考えております。

また、本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

土生佐多 200

伊東宏之 271

Email:kouhou@scn.ac.jp



今年度も2名の中国国費留学が決定

向井智さん（平成21年3月体育学科卒）と安部浩太郎さん（平成21年3月体育学科卒業・院1年生）の中国への国費留学が決定しました。

東北師範大学へ国費留学する向井 智さん



父は、多いときで年4回中国に旅行に行くほど中国好き。今回の留学についても大賛成で、父からは変わってほしいくらいと言われました。積極的に交流し、沢山の外国の方々とともに成長していきたい。当面の不安は「語学力」。日野さんや金井さんを大いに頼りにし頑張りたいと思います。

大学では、日本のフィットネス産業のこれから～中国進出を目指して～の題目で、卒論を書きました。伸び盛りの中国で、フィットネス産業はまだ一般的でない日本のフィットネス産業が進出できるのでは？と可能性を感じています。中国では、その方向からも研究していきたいと思っています。

むかい風 <http://saru007.blog88.fc2.com/>

上海体育学院へ国費留学する安部浩太郎さん



昨年の募集へも応募した経験があり、今回2度目の応募。今回のチャンスを心待ちにしていました。

不安なことと言えば、「中国語」。留学が決定したこともあり、語学力アップのために留学生とのコミュニケーションをはかっていたりしました。仙台大学の先輩である笹井さんの存在があるので、とても心強く、安心

しています。外国の人たちとの交流や中国での生活など、不安というよりは、全てが楽しみです。中国でやってみたいことは、「太極拳」などの武術を学ぶこと。研究としては、子どもたちの体力向上のための体力づくりなどの日中の比較を学んでいきたいと思っています。

ボクノート <http://ameblo.jp/fujiedatarou/>

国費留学中の笹井善仁さんと日野さんが一時帰国

中国に国費留学中の日野晃希さんと笹井善仁さんが一時帰国しました。笹井さんは8月3日に、日野さんは8月21日に学長と佐々木事務局長はじめ諸先生方への挨拶と留学報告を行い、元気な姿を見せてくれました。

笹井 善仁さん



7月から実家である熊本県に戻って、ボートの練習をしたり、親の手伝いをしていました。日本は9月3日に発つので、漕艇部のインカレを応援や、8月末に開催する第2回ISIMカンファレンスのディスカッションに参加する予定です。

中国の経済発展には驚かされます。上海万博も2010年にあるので、地下鉄がこの年で3ラインが9ラインに増えるなど、発展過程がみることで面白いです。

9月からは大学院でコーチングの勉強をする事になっています。これまでは留学生に対する授業でしたので講義はゆっくり進められましたが、大学院では主に中国人に対しての授業なので、講義のスピードについていけるのが少し不安です。中国のコーチングを学んで日本に持ち帰り相互に活かせるようにしたいと考えています。

上海留学日記

http://blogs.yahoo.co.jp/yoshihito_sasai

日野 晃希さん



9月から教育科学学院の教育心理学の教育哲学コースで中国の健康教育について研究する予定です。これからの2年間は、自分の人生で、とても大事な2年間だと思っています。失敗を恐れずに、色々なことに挑戦し中国の文化にどっぷりと浸かって来ます。

仙台大学から後輩が入ることは、すごく嬉しい。感無量。久々に大学に戻ってきて、お会いする先生方にくちさん声を掛けていただきありがたかったです。中国でも、仙台大学で学んだ5年半を忘れず頑張ります。

日野さんのブログのアドレスが変更になりました。
中国珍道中 <http://blog.goo.ne.jp/chinaboy123/>

仙台大学第3回FDワークショップ開催



仙台大学第3回FDワークショップを、9月18日（金）13時から17時まで、F101教室を会場に開催しました。途中入退場を含めて24名の方に参加していただきました。

今回のワークショップは、昨年度の沖先生（立命館大学）同様、FD業界では全国区でご活躍の加藤かおり先生（新潟大学・大学教育開発センター）をお招きし、「大学教員に求められる教育力と、その養成、向上策を考える」のテーマで開催しました。「学習と教育の意味は？」「学習者中心の教育について？」「教員にはどのような役割が求められるのか？」等々に関しまして、グループで意見交換し発表していただきました。

ご参加の先生方からは、「FDについてじっくり考える良い機会とになった」「4時間があっという間だった」「もっと多くの方に参加していただきたかった」「自分自身の取組の理論的な裏付けが確認できた」等々のご感想をいただき、大きな成果を得たFDワークショップとなりました。

FDは、ワークショップ等の単発イベントではなく、「ミクロレベル（授業の改善）」「ミドルレベル（カリキュラムの改善）」「マクロレベル（組織の整備・改革）」の取組の総体ともいえます。学士課程教育は、先生方が担当される個々の科目で完結するのではなく、学科・コース等の教育課程全体で構成されるものです。日常的に関連領域の先生方で意見交換・情報交換することが十分にFDとしての役割を果たしています。また、そういった姿を学生に見せることが、学生の主体的な学びには有効であると、加藤先生はおっしゃっていました。

仙台大学における教育の成果とは何か？その学習成果を得るためのFDとして何が必要か？等々に関しまして、今後も教育改善企画委員会を中心に、皆様と議論し実行していきたいと思っております。後期も、ワークショップ・ラウンドテーブルを企画しております。多くの方にご参加いただけますよう、お願い申し上げます。

（馬場宏輝 / 教育改善企画委員会委員長）

学生相談室主催研修会「学生スポーツ競技者の心理的問題の理解と支援」を開催



9月2日、A棟2F大会議室において、スポーツ臨床心理学の第一人者である岐阜大学教育学部教授鈴木壮氏をお招きし、「学生スポーツ競技者の心理的問題の理解と支援」をテーマに研修会が開催され、学生含め教職員約20名が聴講しました。

今研修では、鈴木先生が体育系大学で実際に対処された事例や、日本のトップチームの選手の相談例など、あわせて7例のカウンセリングの様子が話されました。スポーツ競技者の特徴として、外交的で活動的であることが社会的にも求められる

傾向があることから、悩みを表面化させにくく、身体、つまり怪我や不調などに現れてくることが多いこと。

また、大学スポーツ選手の心理的問題は、一般学生よりも広範囲（競技に係わる問題や人間関係、学業との両立などの悩み、青年期的な悩みなど）にわたっており、複雑で多くを同時に含む傾向があるそうです。

スポーツ競技者の心理相談において注意すべきこととして、指導者の指示で行動することに慣れている競技者にとって、安易なアドバイスや指導は注意が必要であること。スポーツ競技者の身体が表現していること（怪我を含め）は、心の表現でもあること。聴くこと、そして受け止めることが大切であることなどが話されました。

学生相談室窓口を独立させて3年、本学でも体育系大学の学生がかかえる悩みや様々な環境下での問題など、年々多岐に亘る相談が寄せられています。学生と近い距離にいる立場の教職員が、どのようなスタンスで向き合うべきかを考えさせられる研修となりました。

タイ国 シーナカリンウィーロート大学より若手研究者を招聘

8月24日 9月7日の日程で、本学と国際交流協定を提携しているシーナカリンウィーロート大学から若手研究者Tanormsak Senakham (タムセカハム) 氏を招聘し、本学施設を使って研究活動を行いました。滞在中には研究の他、ウェルカム・フェアウェルパーティー、広島での体育学会参加や学生との交流など、充実した内容にタム氏は「仙台大学では、言葉に表せないほど多くのことを学び、貴重な経験をさせていただきました。関係者のみなさまに心から感謝いたします。」と語っていました。



写真提供:高橋(弘)教授

「こどもスポーツ大学」開催



9月20日(日)から22日(火)までの3日間、北海道中川郡中川町で、今年で2回目となる「こどもスポーツ大学」が開催されました。

この「こどもスポーツ大学」は、スポーツの価値やスポーツ栄養、ルールの存在意義などについてスポーツを通して「自ら考え行動する」力を身に付けることを目的とした仙台大学スポーツ情報マスメディア研究所(ISIM)のチームティーチング型の「スポーツ教育プログラム」です。このプログラムは、参加者の子ども達が実際に“大学生”になり、普段の生活の場を離れ2泊3日の合宿形式で行われました。今回の参加者は北海道上川北部地区5市町村(中川町・美深町・音威子府村・名寄市・下川町)の小学校4年生から6年生の子ども達24名でした。

なお、この「こどもスポーツ大学」は、上川北部広域タレント発掘・育成組織設立準備委員会が受託している平成21年度文部科学省「国際舞台で活躍するアスリート輩出のためのタレント発掘モデル事業」の一環として行われました。

<スポーツ情報マスメディア研究所>

現代GP「地域密着型の健康づくり支援システムの構築」

女性のための健康講座



地域健康づくり支援センターでは柴田町の方25名を対象にして「今日から始める女性のための健康講座(全6回)」を開催しています。講座では健康を維持するために欠かす事ができない「運動」・「休養」・「栄養」のについて学習し、受講生の生活習慣改善を推奨しています。9月10

日には、「栄養」の観点から丹野准教授・岩田講師の指導により、「1食で1日に必要なカルシウム量の8割を満たす献立」をつくる料理教室がおこなわれました。健康づくり運動サポーターも加わり交流しながら調理が進められました。今回の教室に参加した健康づくり運動サポーター4名の内3名が調理の基礎や知識がある運動栄養学科生ということもあり、会話を楽しみながらも手際よく料理が出来上がっていく様はみごとでした。

作ったのはわかめご飯、納豆汁、桜えびの和風オムレツ、ほうれん草のチーズ炒め、ミズナとじゃこのサラダ、ココア風味のミルクくずもちのデザートです。調理後には一緒に食事をしながら交流を図ると共に、学生が自ら調べた栄養に関するミニ講座もあり、受講生たちも関心深げに聞き入っていました。

第12A行政区での健康講座

9月10日に第12A行政区の健康講座が中名生集会所(柴田町内)で開催され、教職員4名と健康づくり運動サポーターの5名(中級4名、初級1名)で実施しました。

第12A行政区の住民29名(男性13名、女性16名)の参加がありました。教室は近藤新助手の講話「よい睡眠をとるコツ」のあと、普段の生活に取り入れて欲しい「楽しい運動」が紹介され、中級の学生もアイスブレイキングやストレッチなどを担当し、お年寄りと一緒に運動をしました。今回初めて運動を担当するという事で緊張した学生もいましたが、孫ほど年が離れている受講者にとってはそれが余計に親しみを持って下さったようで、終始和やかな雰囲気の中で教室は進みました。



第3回 大学・地域評価委員会



9月17日(木)には第4体育館演習室において「健康づくり運動サポーター事業(現代GP)第3回大学・地域評価委員会」が開催され、事業の実施状況や健康づくり運動サポーターの認定状況・履修状況などが報告と委員の方々から貴重な意見・提言を頂きました。

評価委員は以下の通り

委員長	朴澤泰治(仙台大学学長)
副委員長	滝口 茂(柴田町町長)
	橋本 実(健康福祉学科学科長)
学識経験者	乾 秀(乾医院院長)
	我妻一雄(柴田町社会福祉協議会会長)
柴田町民	鴫田一雄(シニアカレッジ修了者)
	工藤昭子(シニアカレッジ修了者)
大学教員	小池和幸(仙台大学教授)
学生	糟谷奈美(健福4年、現在上級受講中)
	星 昭伍(健福3年、現在上級受講中)

外国人留学生が続々来日



今年10月から科目等履修生として在籍する留学生2名が来日し、9月18日(金)には朴澤学長のもとを訪れ挨拶を行いました。

留学生は台東大学(台湾)の劉 姿伶さん(上写真:中央)と曾 鈺 倫さん(上写真:右)で、両大学間で締結しているダブルディグリー協定(台東大学で2年間学び、仙台大学で2年間学び所定の単位を取得した後、台東大学に戻り、そこで学位を修得した場合仙台大学の学位も授与される)に基づいて2年間、日本語の習得および教職関連科目の履修に励む予定です。

劉さんは台湾学生柔道界で優勝した経歴を持つ実力者。平成19年7月には台東大学柔道部7名と共に来学し、本学柔道部の合宿に参加した経験をお持ちです。曾さんは高校・大学と、部活動で

ダンスを専攻されていたそうです。

また、9月24日には瀋陽師範大学から来年4月に大学院入学予定の楊(よう)楊 兆淇さん(下写真:左)と戴 璐さん(下写真:左2)が朴澤学長に挨拶を行いました。大学院予定者は来月にも吉林体育学院から趙 倩穎さんと張 坤さん、上海体育学院から侍 政さんと李 星さんの4名が来日する予定です。



中国から高校生21名が来訪

21世紀東アジア青少年大交流計画

9月11日に外務省が進める「21世紀東アジア青少年大交流計画」で来日した中国の高校生21名が来訪し、本学の施設見学を行いました。中国人留学生3名(祁(キ)祁 聖傑さん、徐 一文さん、黄 聡 さん)も同行して交流を深めました。訪問団は前日には明成高校を訪問し、高校生同士の交流の様子が河北新報で紹介されました。



内丸講師が瀋陽師範大学で「帰国外国人留学生研究指導事業」実施



9月4～8日には、朴澤学長、馬(佳)助教、馬(冬)臨時職員も同大学を訪問し、同大学の視察と協議等を行いました。

瀋陽師範大学のホームページで紹介されています。

<http://210.30.208.141/index.html>

<http://210.30.208.141/zyxw/zyxw09097.html>

<http://210.30.208.141/zyxw/zyxw09095.html>

独立行政法人日本学生支援機構が提供する「帰国外国人留学生研究指導事業」の申請が採択されたため、平成21年8月29日から9月7日の10日間の期間に本学大学院修了生である楊光氏（現瀋陽師範大学准教授）の在籍する瀋陽師範大学にて本事業を実施してきました。

本事業は我が国における留学時の指導教員等を現地に派遣して行わせる実施指導、並びに、研究者及び学生等に対するセミナー開催等の事業の実施を支援することにより、帰国留学生の教育、研究能力を高めるとともに、その他研究者等に対する有益な情報の提供を通じて、現地の研究者との学術交流の推進及び我が国への留学促進に寄与することをねらいとして実施されております。

帰国留学生として申請の対象になりましたのは、本学大学院修了生である楊光氏であり、現在、瀋陽師範大学にて准教授として勤務しております。今回の事業では、楊氏に対して健康体力分野に関する研究指導、瀋陽師範大学体育学院の学生及び大学院生に対する講義、実習及び演習、体育分野における研究者を招いてのセミナーなどを実施してきました。（内丸 仁）



平成21年度9月期卒業式を挙行



9月29日（火）に平成21年度9月期卒業式を関係教職員が参列するなか、A棟大会議室において挙行了しました。今回卒業を迎えたのは体育学科の佐藤久美子さんと岡部正彦さん、健康福祉学科の佐谷一美さんの3名です。

キックオフセミナー開催



9月23日(水)にB300教室において3学年を対象にした第1回就職ガイダンス「就職活動キックオフセミナー」が開催され、学生約400名が参加しました。

今回のガイダンスでは、創職作業チームの山内教授より就職活動における心構えについて話があり、佐々木事務局長・室長より今年度の就職状況並びに来年度の就職戦線が引き続き厳しい状況となるであろうという予測のもと、早めに就職活動をするのが何よりも重要であるという説明がなされました。また実際の就職筆記試験も行われ、学生達の就職活動に対する意識も高まりました。

OBからの寄贈

本学OBで元浦和レッズ選手の内館秀樹さん(平成8年3月卒)よりサッカーボールオブジェ、ベガルタ仙台の細川淳矢選手(平成18年3月卒)よりユニフォーム(ともに本人のサイン入り)を寄贈いただきました。共に学長室にディスプレイしてありますのでご覧ください。



オリジナル特選丼が決定

第一回仙台大学オリジナル特選丼決定!!

特選丼の部

最優秀賞 (学生食堂食事券3000円相当分)
<豚キムチ厚揚げ丼>
 運動栄養学科4年生 佐藤 絢佳さん


優秀賞 (学生食堂食事券特選丼5杯分)

- 和風ロコモコ丼
運動栄養学科2年生 葛西 令奈さん
- 麻婆ジャガ丼
運動栄養学科4年生 佐々木 裕哉さん
- エビマヨ丼
運動栄養学科4年生 佐々木 利恵さん

朝食の部 (学生食堂食事券1000円相当分)

- 鮭のマヨネーズ風味照り焼き
運動栄養学科4年生 中山 優一さん
- 納豆もやしトースト
運動栄養学科4年生 山口 悠之さん
- 豆腐ステーキ
運動栄養学科4年生 工藤 美紗貴さん
- 夏野菜スープカレー
運動栄養学科4年生 古屋 悠子さん

採用させていただきましたメニューは後期(10月)に実施する予定となっております。たくさんのご応募ありがとうございました。



学食を運営しているシダックスが応募していた「仙台大学オリジナル特選丼」の各賞が発表になり、最優秀賞には佐藤絢佳さん(運動栄養学科4年)の「豚キムチ厚揚げ丼」が選ばれました。その他の各賞は左図の通りです。これらのメニューは10月19日から学食に並ぶということなので、是非、ご賞味ください。

最優秀賞の佐藤絢佳さん(運動栄養学科4年)



今回応募した「豚キムチ厚揚げ丼」は、食べた人を、元気にお腹いっぱいになりたいという思いで考案しました。たんぱく質を多く含む豚肉と厚揚げで筋肉強化を、キムチで食欲増進をねらっています。今回最優秀賞に選んでもらい、自分が考案したものが学食のメニューとして出される事は嬉しいです。

2009世界ボート選手権観戦記

< 小松恵一教授より情報提供 >

日本代表として仙台大卒業生が4人参加



マルタ湖全景（ゴール側から）



マルタ湖案内図

2009年8月21日から30日にかけて、ポーランドのポズナンで世界ボート選手権が開催された。参加国数は55カ国で、参加選手数は、約1000人である。そこに、仙台大学卒業生が4人日本代表として加わっていた。わたしは、ちょうどその時期ベルリンに滞在していた。ポズナンは、ベルリンから200キロ程度の距離にあり、比較的近い。そこで27日から最終日まで応援に赴いた。

競技会場であったマルタ湖という人口湖は、公園として整備され、ポズナン市民にとって憩いの場であり、ボート競技は無論のこと、さまざまなレクリエーションの場となっている。その風光明媚な湖で、死力を尽くしたボート世界選手権が行われた。

はるか2kmの遠方から徐々に近づいてきて、1500メートル付近からようやく国の判別もできるようになる。それまでは、電光掲示板とスクリーンを注視するしかない。選手は必死に漕いでいることには違いないのだが、一見すると、オールの一掃された動きとボートの水上を滑る水平動は、競技であることを忘れさせるほど優雅でもある。

最後の500メートルで観客席からは、一斉にさまざまな国名が叫ばれ、勝ったチームの応援団は、ひとしきり抱き合ったりしている。日本からの応援団は、わたし以外には二選手の両親4名だけであった。その5人の喚声は、選手に届いたかどうか。

日本チームは、すべて軽量級での出場である。それは日本人の身体的条件からして当然とも言える。それに比べて、アジア人以外の選手たちの

体格は、ある種威圧を感じさせるほどである。日本人はやはり華奢である。そのとき、日本人競技者はどのようにして対抗することが出来るのか。だから軽量級があるとは言え、足と手の長さは異なる。そうした条件のもとで、日本のプレゼンスはあまりなかったというべきかもしれない。しかし、日本人選手たちが果敢に競技に立ち向かう姿は、いじらしくも、また健気であった。だからこそ、今回の世界選手権での観戦では、心底日本人選手を、仙台大卒業生を応援した。



NTT東日本エイトチーム
6位までであるが、日本チームが掲示された



仙台大学出身日本代表メンバー
大同、大元、渡辺、三浦（左から）

< 日本選手の結果 >（太字は仙台大学出身者）

LM2-（軽量級男子ペア）（田立、大同）

ファイナルBで4位（通算10位）

LM4-（軽量級男子舵なしフォア）（佐藤、須田、片岡、大元）ファイナルBで4位（通算10位）

LW1X（女子シングルスカル）（岩本）

ファイナルCで1位

LM8+（軽量級エイト）（NTT東日本ボートチーム）

（仙台大学出身は、渡辺、三浦）（三浦は補欠）

ファイナルAで4位

LM1X（軽量級男子シングルスカル）（武田）

ファイナルAで4位

陸上競技部インカレで投擲2種目優勝

～ やり投げの佐藤寛大さん、ハンマー投げの佐藤若菜さん～

9月4 - 6日に国立競技場で開催されている陸上競技の天皇賜杯第78回日本学生対校選手権大会（インカレ）において、男子やり投げの佐藤寛大さん（体育学科3年）が72m87（自己新）で初優勝しました。佐藤さんは蔵王高校出身。元々は8種競技をしていたが、高校2年から「やり投げ」に専念。高校では国体で3位に入り、大学1年の時には日本ジュニア陸上競技選手権大会を制している。本学男子部員のインカレ優勝は初めて。仙台大学陸上競技部に新たな歴史を刻んだ。

女子ハンマー投げでは佐藤若菜さん（体育学科4年）が57m10（自己新）で初優勝しました。佐藤さんは相馬東高校出身。高校まではやり投げの選手だったが、大学からハンマー投げに転向すると短期間で記録を伸ばし、昨年のインカレでは54m56で第2位。今年6月の日本学生陸上個人選手権でも第2位に入りました。そして今大会で悲願の全国制覇を成し遂げました。



佐藤寛大さん

進学時には関東の大学からもお誘いを受けたが、地元の仙台大学を選んだ。今大会で自分の選択が間違っていなかった事、地方大学でも勝てる証明出来たことが嬉しい。

昨年は度重なるケガに悩まされ、目標を失いかけた事もあった。しかし、投擲ブロックとして練習を共にする先輩の延味由起選手（やり投げ）、佐藤若菜選手（ハンマー投げ）（共に体育学科4年）が学生チャンピオンになるなどの活躍を目の当たりにし、自分ももう一度「日本一」を取ろうと強い励みとなった。

現在、陸上競技部には全国学生大会入賞者が5名在籍。関東との力の差は詰まってきたと思うので、部を牽引して来年の2連覇を果たしたい。



9月25日には、陸上部部長の藤井(邦)教授、監督の横川教授とともに、学長へインカレ優勝報告を行いました。日々記録を塗り替えていく二人へ、学長からは、それぞれにお祝いの言葉とともに今後更なる飛躍を期待したいとの激励がありました。

ボート全日本選手権大会結果

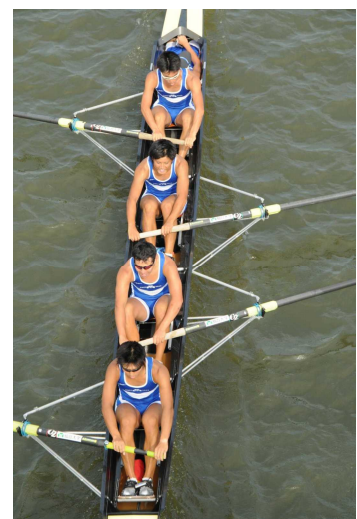
9月10 - 13日に戸田漕艇場で行われたボートの第87回全日本選手権において、本学漕艇部が社会人を相手に健闘しました。競技結果は以下の通りです。

【男子】

- ・舵手つきフォア 4位
- ・エイト 7位
- ・舵手なしフォア 8位

【女子】

- ・舵手なしペア 2位
- ・エイト 5位
- ・ダブルスカル 8位



障害者サポート研究会Co - Act. が感謝状を授与

9月1日(火)に仙台市民会館において障害者へのボランティア活動に対する感謝状授与式が開催され、「障害者スポーツサポート研究会Co - Act. (以下 コ・アクト)並びに部長である高橋まゆみ准教授が、仙台市手をつなぐ育成会から感謝状をいただきました。

仙台市手をつなぐ育成会は毎週土・日に知的障害者を対象にして「料理教室」、「3B体操教室」、「ニュースポーツ教室」などを開催している団体です。

Co・アクトも年に8回、パルシティ仙台(宮城野区榴ヶ岡)や楽楽楽ホール(太白区長町)を会場にニュースポーツ(ボッチャ、キンボール、フライングディスク等)やレクリエーション(ルールを簡単にした鬼ごっこ等)を企画・開催し、知的障害者の方々と一緒に楽しい時間を過ごしており、長年にわたる活動が評価されたものです。

Co・アクトのメンバーは、障害を持っている方に関わる職に就く希望を持った健康福祉学科の学生だけでなく、体育学科や運動栄養学科、スポーツ情報マスメディアの学生など、本学のスポーツ・フォア・オール理念に根ざした、「スポーツを通じて人を喜ばせたい」という意思を持った学生が集まり、活動の場を広げています。



山田華夏子さん(健康福祉学科4年)



Co・アクトでの活動を通して、障害があるからスポーツが「できない」ではなく、ルールを変更するなど、少し工夫することで障害者が健常者と同様にスポーツを楽しむことができることを知りました。

今回感謝状を頂きましたが、自分達で企画・運営する環境は限られているので、このような機会を与えて下さっている「仙台市手をつなぐ育成会」にはこちらから感謝状を贈呈したいくらいです。これからも楽しい時間を知的障害者の方々と共有できるように努力していきたいと思えます。

カヌーの日本選手権で石原夏海さんが優勝



左：石原さん、右：斉藤選手

9月10 - 14日に石川県木場潟カヌー競技場で行なわれた日本選手権大会(平成21年度日本カヌースプリント選手権大会)において石原夏海さん(運動栄養学科4年)がOBの斉藤美穂選手(平成20年3月卒)と組んだ女子カヤックペア1000mにおいて2年ぶり2度目の優勝を果たしました。

この大会は国内で行われるカヌー最高峰の大会であり、日本代表を選考する大会でもあります。シングル種目では1000m / 13位、500m / 16位で代表選考基準に届きませんでした。ペア種目で、高校・大学の先輩である斉藤選手と息の合ったレースを見せてくれました。

石原さんは中新田高校(宮城県)から本学に進み、今年8月に行なわれた全日本学生カヌー選手権大会(インカレ)でもシングル5000mで第4位と好成績をおさめています。

石原 夏海さん(運動栄養学科4年)

高校のチームメイトが関東の強豪大学に進学するなか、「スポーツ」と「栄養」の両方を学べる仙台大学を選び、自分次第で強くなれることを証明したいと努力してきました。8月のインカレではシングル5000mで4位、今大会のペア1000mで念願の優勝と、地方大学でも練習を積み重ねれば目標を達成すると証明できたことがとても嬉しいです。

天皇杯・皇后杯全日本バレーボール選手権 東北ブロック優勝

男子バレーボール部（宮城県代表）が9月6日に開催された天皇杯・皇后杯全日本バレーボール選手権東北ブロック決勝において弘前工業高校（青森県代表）をストレートで下し、初めて東北ブロック代表の座を掴み取りました。

この大会は日本一を目指して、中学生以上のチーム（6人制）が競う大会でブロックラウンドを勝ち抜いた男子16チーム・女子14チームとVプレミアチーム（Vリーグの1部リーグ）でのノックアウトトーナメントで行なわれます。



次戦は、11月中旬に予定されており、関東Aブロックの優勝チームとの対戦となります。

きじま
鬼嶋 一成（写真：左）
細川 優樹（写真：右）

キャプテンとしてチームを牽引するセッターの

鬼嶋一成（体育学科4年）と、チームのエースとして高い決定率でチームを支える細川優樹（体育学科2年）に話を聞きました。

今大会では夏休みの練習・合宿の成果を十分に出すことができた。一人ひとりが自分の役割を果たし、それが優勝という結果になったので、部員の大きな自信になったと思う。

今年の夏休みは、昨年北京オリンピック全日本男子チームサポートのため不在だった石丸監督には、ほぼ毎日ご指導いただいた。内容の濃い練習ができ、チーム状態は良い形ができています。自分達のバレーが出しきれずに負けるのは一番悔しいので、努力してきた事をコートの中で出し切りたい。勝敗はその結果として付いてくるので東北代表として恥じないプレーだけを心掛けたい。

また、11月下旬にはインカレもあるので、今以上にチーム力を向上させ、目標としている全国ベスト8入りを果たしたい。

バスケットボール / 東北地区大学バスケットボール1部1次リーグ



9月4～13日に東北学院大学泉キャンパス体育館において、東北地区バスケットボール1部1次リーグが行なわれ、女子においては創部以来初のトップ通過を果たしました。この後、男女共に2チームだけに与えられるインカレ出場権をかけて1次リーグトップ4チームで争われる2次リーグ（10月9 - 11日）に挑みます。男子の巻き返しと女子の優勝に期待したいです。

試合結果

【男子】67-97	富士大学	【女子】79-56	富士大学
83-91	東北学院大学	88-50	岩手大学
81-77	ノースアジア大学	94-63	福島大学
85-76	弘前大学	79-65	東北大学院大学
78-73	青森大学	74-71	山形大学
一次リーグ：3勝2敗（3位通過）		一次リーグ：5勝0敗（1位通過）	